

郷土の自慢と誇り 久々利ふるさとマップ

久々利の多様な自然



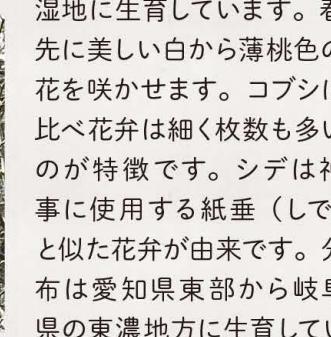
可児市で最も高い浅間山(標高372m)を中心とした丘陵地は、シア・アカシ・コナラ・アベマキなどの自然林が分布し、サクライノウやギフチョウを代表する多様な動植物を育んでいます。また、所々に見られる湧水湿地には、東海丘陵要素植物のカイコウモウセンゴケやハッショウソウが生息しています。

シデコブシ



モクレン科の低木落葉樹で湿地に生育しています。春先に美しい白から薄桃色の花を咲かせます。コジニに比べ花は細く枚数も多いのが特徴です。シデは神事に使用する紙垂(し)とばの花弁が由来です。分布は愛知県東部から岐阜県の東濃地方に生育しています。東海丘陵要素植物の一つです。

ギフチョウ



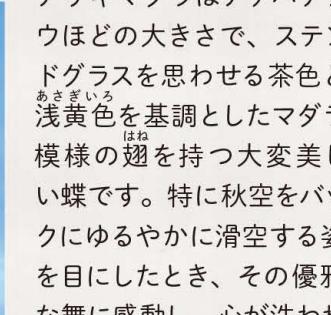
アゲハチョウのなかまで、年に一度早春の雄木林に現れます。成虫はカタクリやミツバツツジの葉から蜜を吸い、メスはカノンオイの葉裏に卵を産みます。ふ化した幼虫はその葉を食べてやがてサナギになります。ギフチョウの名前の由来は、岐阜県下呂市金山町で最初に発見されたためギフチョウと命名されました。

アサギマダラ



旅をすることで知られるアサギマダラはアゲハチョウほどの大きさで、ステンドグラスを思わせる茶色と浅黄色を基調としたマダラ模様の翅を持つ大変美しい蝶です。特に秋空をバックにゆるやかに滑空する姿を目にしたとき、その優雅な舞に感動し、心が洗われるかもしれません。秋、どこから飛んでもうか、久々利でもその美しい姿を観察することが出来ます。

サンコウチョウ



三光鳥と書きます。鳴き声が「月日月日ホイホイホイ」と聞こえることからその名がつきました。毎年初夏、南方より渡ってきて巣作りから子育てをします。子どもが一人になる秋にまた南方へ帰って行きます。久々利では小渕ため池上流の沢沿いに見られます。雌雄ともスズメほどの大ささですが、目の周りが水色でとてもきれいなこと、雄の尾がとても長いことが特徴です。

E

久々利に見られる植物



中山間地である久々利の地形は、植物にとって多様な生息環境をもたらしています。特に浅間山を中心に広がる自然林には太古の時代からこの命を脈々と今に伝える様々な植物が見られます。サクラノイロをはじめ東海丘陵要素植物など稀少な植物も生息しています。

G

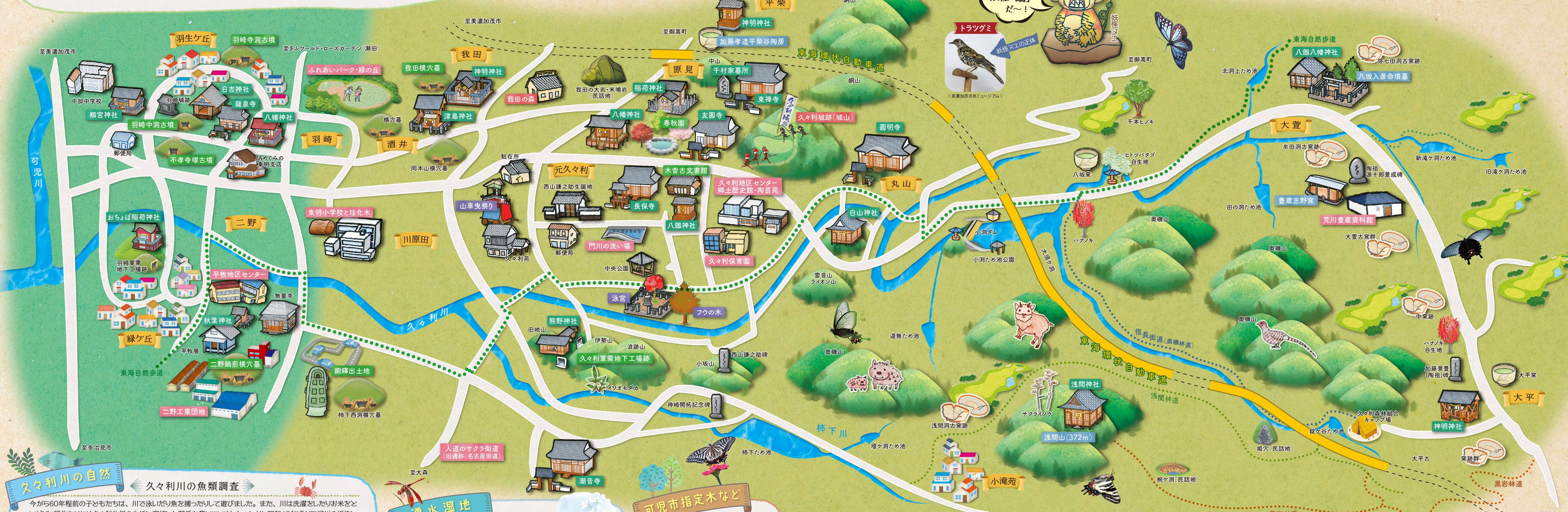
久々利に見られる蝶



久々利は中山間地であるため植物層も豊かです。從って蝶の食草も豊富で、ギフチョウやアサギマダラはじめ約80種類の蝶が生息しています。中でも久々利周辺に点在する湿地にはヒメヒカゲといい稀少種も生息しています。昨今の温暖化で南方からやってくる蝶、北方へ移動する蝶などとの蝶層は少しづつ変化しています。



森の妖精ゼフィルス(ミドリシジミ類)コナラ、アベマキを中心とした自然林にはゼフィルスと呼ばれるジミチョウが生息しています。日本には25種類いると言われていますが、久々利ではそのうち9種類の生息が確認されています。多くは本科のコナラやアベマキなどを食べます。5月から初夏にかけて見ることができます。



久々利川の自然

久々利川の魚類調査



今から60年程前の子どもたちは、川で泳いだり魚を捕つたりして遊びました。また、川は洗濯をしたりお米をどうぞいしと稲作をはじめ久々利住民の生活と密接な関係を築いていました。しかし昭和40年頃から川の汚染と共にそれが関係は薄れ川魚の姿も急速に見られなくなりました。

最近になって徐々に水質も改善され、以前より魚の姿を見る機会が増えてきました。

そこで、2023年の夏に岐阜大学・向井先生のご協力を得て久々利川の生物調査を実施し、以下の生物の生息を確認しました。(調査場所: 丸山薬師洞、丸山久々利川本流、大萱久々利川本流)

※生物名の()内は久々利での呼び名



湧水湿地

久々利周辺の丘陵地には、硬い岩盤や粘土層が不透水層となり地表に水がしみ出している湧水湿地が点在しています。この湿地は特有な環境を保つことでハッショウトンボやサギザイを始め稀少な生物が生息し独特な生態系をつくりています。

モウセンゴのなまは葉の表面の毛先が粘液を出し、小さな虫をぐるぐると消化吸収します。このような植物を食虫植物といい、赤い花をつけるトウカイモウセンゴケは東海丘陵要素植物の一つです。



可児市指定木など

久々利内地の東海自然歩道沿いに、3種の市指定木(市指定天然記念物)をみることができます。また、指定木以外でも珍しい千本ヒノキが生息しています。



久々利の地質

美濃帯と呼ばれる中古生層の硬いチャート・砂岩・頁岩からなりての辺り一帯の基盤をなしています。その裾野には上部に堆積した新生代中新世の平牧層(パバ)、更にその上に鮮新世砂礫層が広く覆し現世の浸食を受けて丘陵を形成しています。所々に中生代の火成岩類の貫入岩体も見られます。平牧層からは木の葉・大型哺乳類の化石が、鮮新世の礫層中には桃山陶の原料となった粘土や尾根(葛鉄鉱)などが見られます。



久々利に見られる鳥



浅間山に連なる山々と流れ出る久々利川や一帯に広がる田園には、色とりどりの生息する鳥や渡り鳥が飛来します。

